

学びっこ通信



発行：栄小学校学力向上チーム

令和3年6月14日



家庭学習のヒント ～【人口約 2500 人の山村が学力日本一になったワケ】

いかに勉強の習慣をつけさせるか？ そのヒントとなるのが、秋田県にある人口約 2500 人の山間の小さな村、東成瀬村。そんな山村が文部科学省の全国学力テストにおいて、「学力日本一」に！ 普通に考えても、単なる教育プログラムの充実だけではダメで、やはりそこには子どもが率先して学ぶ気になる「何か」がないと学力日本一は難しいと思うのです。

■人口約 2500 人の山村が学力日本一になったワケ

「子どもが進んで学ぶ」。これを可能にしている学習法のいくつかが東成瀬村にはあります。そのひとつが、秋田県内の多くの小中学校で採用されている「自学ノート」です。自学ノートとは、自分で勉強をする内容を決めて、家庭で学習するための自主学習ノートのこと。「自学ノート」で行うのは、得意教科をより理解する勉強でも、苦手教科を克服する勉強でもどちらでもいいのです。子どもたちが自分で「これを今日はやる」と決めて、自宅で自主学習する時間を持つ。このノートを東成瀬村では活用しているそうです。

自学ノートは**自主性**を重んじます。**主導権は子ども**。他者からの押し付けではなく、自分で課題を決めて実行する。親や教師はあくまで、実行しようとする子どもを見守り、少しだけ後押しするに過ぎないということです。

<自学ノートのねらい>

●子どもたちが自分で計画して、実行

→家での学習を習慣化し、自ら学習の計画を立てる。

●子どもたちが自ら課題を見つけ、解決

→学業のつまづきをいち早く発見し、解消する。

●子どもたちが自ら進んで興味のあることにトライ

→学ぶことの面白さを子どもたち自身が見出す。

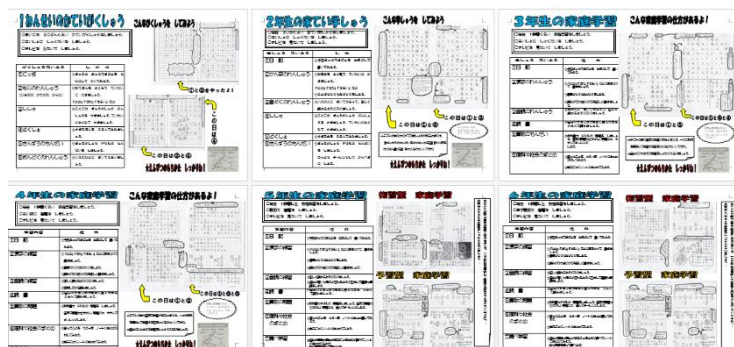
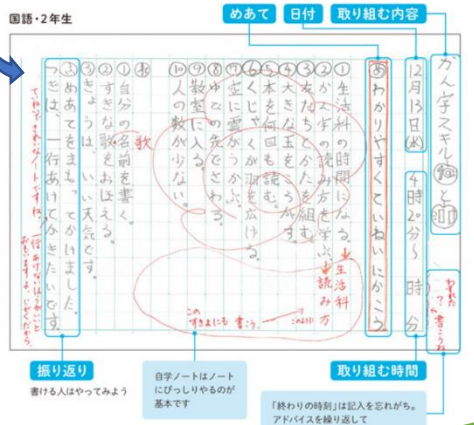
村で考える最終目的

【「自学ノート」の最終目標】

それは、子どもに自立を促し、

自分が何を目標しているのか人生を設計する。

ヒミツのつづきは、次号でまた



栄小学校でも「家庭学習のてびき」として、配布しています。あくまでも一例です。各学年での取組を優先として、その他、各ご家庭で取り組む際の参考になればと考えています。ホームページにも掲載しています。